

学校図書館探訪② ～工学院大学附属中学校・高等学校 学校図書館～

秋吉 和紀

はじめに 訪問の目的

訪問の主な目的については、前節「学校図書館探訪①」に記載した通りである。工学院大学附属中学校・高等学校の学校図書館が持つ、他の学校図書館にはない魅力は何かと言えば、それは本格的な「Fab スペース」を有し、それを活用した実践が行われていることである。また、コロナ禍で今まで以上に注目されることになった「電子図書館」についても、工学院大学附属中学校・高等学校の学校図書館は2018年より導入を開始している。その「電子図書館」では、単に電子書籍の貸出に供するだけでなく、生徒の成果物や創作物をネットワーク上で閲覧できるようにするなど、電子サービスを利用した教育実践も行っている¹。

今日の学校図書館は、「読書センター」としての機能だけではなく、「学習・情報センター」としての機能も求められている²。本校の新図書館の「学習・情報センター」としての機能を考えるにあたって、工学院大学附属中学校・高等学校の学校図書館のそれらの取り組みが参考になるとにらみ、今回の訪問に至った。

工学院大学附属 中学校・高等学校の紹介

工学院大学附属中学校・高等学校は、東京都八王子市にある工学院大学の附属学校である。2013年度から「21世紀型教育」の創造的改革に着手し、その過程の中で学校図書館の変革も進んでいった。

工学院大学附属中学校・高等学校の学校図書館のねらいは、学校ホームページにもあるように、情報収集から、情報活用、アウトプットまでを総合的に支援するというものである(写真1)³。蔵書はおよそ30,000冊で、定期購読している新聞や雑誌も豊富に取りそろえている。学校の特色からか、科学系のジャーナルや英語の雑誌が他校より充実している印象を受けた(写真2)。「Fab スペース」⁴は2018年から稼働しており、この学校図書館の最大の特徴

¹ 工学院大学附属中学校・高等学校は OverDrive 電子図書館サービスを利用。洋書のライオンナップは充実している (OverDrive Japan ホームページ <https://overdrivejapan.jp/>)。

² 文部科学省ホームページ内「学校図書館の位置付けと機能・役割」
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/meeting/08092920/1282744.htm

³ 工学院大学附属中学校・高等学校ホームページ内「図書館」
<https://www.js.kogakuin.ac.jp/schoollife/library.html>

⁴ 「Fab」という言葉は、「Fabrication」と「Fabulous」の二つの意味が掛け合わされた言葉である。ものづくりの楽しさを肯定的に捉える言葉である。

と言える。これについては、箇条書きで後述する。



(写真1)

図書館に掲示されている「思考のプロセス」

「STEP1 を見つける STEP2 あつめる
STEP3 分析する STEP4 まとめる
STEP5 つたえる STEP6 ふり返る」

情報収集→活用→アウトプットという過程が、
生徒目線でわかりやすく書かれている。

(写真2)

「日経サイエンス」、「ナショナルジオグラフィック」などの科学ジャーナルが豊富。



学校図書館視察の概要

(視察の日程等)

視察日時 : 2020年3月13日(金) 13:00~14:30
本校からの参加者 : 3名
ご対応いただいた先生 : 司書教諭・国語科教諭 有山 裕美子 先生
視察の概要 : 学校図書館の概要のご説明、図書館内視察
図書館設備に関する質疑応答

(発見や学び)

- ・最初の3Dプリンターの導入は、2016年秋である。
- ・Macのデスクトップパソコンを5台、3Dプリンター「ダヴィンチ Jr.」を4台設置している。近くにはブレストやグループワークに使えるテーブルが配置されている(写真3および写真4)。
- ・「Fabスペース」の周囲のグッズはカラフルである。「Fab」という言葉が本来持っている「楽しさ、愉快さ」を体現できるような空間作りがなされている。
- ・今まで「Fabスペース」から生み出された成果物を小さなパネルで紹介している(写真5および写真6)。



(写真3) 3Dプリンター

ヴィヴィットな色で創作意欲をかき立てる。近くにグルーガンやノギスなどもあり、「秘密基地」にいるような昂揚感を覚える空間である。

(写真4) テーブルとイス

長方形の机もある。プレストやグループワークがしやすいように、どの机も座れる人数を「6人」と設定している。



(写真5) 成果物のパネル展示

5台重ねたフロッピーディスクドライブが音楽を奏でる「パリッピー」、スマホのGPS機能を搭載した腕に装着する道案内デバイス「羅針腕」、リコーダーとトロンボーンを組み合わせた楽器「リボン」など、斬新な発想の成果物が多い。

(写真6) 「Dream Desk」のパネル

生徒用の机の中心をくりぬき、ゲーム機をはめこんでいる。Tsukuba Mini Maker Faireでも展示され、子どもだけではなく、大人にも人気だったそう(喫茶店のインバーダーゲーム遊んだ世代にとっては親近感が湧くようだ)⁵。実物も図書館内に飾られている。



⁵ Tsukuba Mini Maker Faire での様子は学校のブログでも確認できる。

<http://kogakuin-jsh.hatenablog.jp/entry/2020/02/15/224533>

- ・今回ご案内いただいた有山先生は、この「Fab スペース」を利用して「デザイン思考」に関する授業を行っている。そのため蔵書にも「デザイン」に関する本が多い。
- ・電子図書館上で、生徒の創作物を閲覧できるようになっている。自作の小説を匿名であげているようだ。閲覧者も少なくないようである。
- ・図書館には、動画撮影&動画合成をするための「グリーンバック」を配置したスタジオ機能を持つような空間がある(写真7)。
- ・生徒が自主的に作ったグループ「ちーむべりいぐっと！」は、先述のグリーンバックの空間を使いながら、東北の復興応援動画、YouTube での防災動画、震災ドキュメンタリー動画を作成している。YouTube 内にもチャンネルを持っている⁶。
- ・学校図書館のホームページは、学校として契約している有料のサービスやデータベース、それ以外の無料のサービスやデータベースを含め、多種多様なオンラインサービスやデータベースに繋がるようになっている。知的好奇心がかき立てられるようなホームページとなっている⁷。

(写真7) 「グリーンバック」背景
画像合成を可能にするグリーンバックの背景は、生徒の反転授業の可能性を広げるツールでもある。以前訪問した近畿大学附属高等学校・中学校も同じ設備を持っていた。



(写真8) 「Fab スペース」全景
学びと遊びの境界があいまいな空間だからこそ、斬新な発想が生まれやすいのだろう。

⁶ 「ちーむべりいぐっと！」 YouTube チャンネル

https://www.youtube.com/channel/UCbNA9cUX2R74VCBLicrA0OQ?view_as=subscriber

⁷ 工学院大学附属中学校・高等学校 学校図書館 ホームページ

<https://www.fab-library.com/>

おわりに 本校における「電子図書館」導入の意義を考える

工学院大学附属中学校・高等学校の学校図書館を訪れると、魅力的な「Fab スペース」に目を引かれるが、私自身は今回の訪問で「電子図書館」についても多くの学びがあった。有山先生からお聞きした「電子図書館」導入に関するお話や、帰阪後に日本電子出版協会のホームページで確認した電子図書館に関する記事を参考に、本校に電子図書館を導入した際のメリットを以下にまとめた。

（「電子図書館」 導入のメリット）

- ・電子図書は摩耗、消耗、汚損などの劣化を気にしなくても良い。
- ・個人のデバイスからアクセスできる。貸出頻度や閲覧頻度が高い書籍に関して、多数の人間が触れることで生じるリスクが軽減できる。
- ・空間的制約を解消できる。電子図書館により、図書館の省スペースが実現。「紙媒体で見られないもの」と「電子書籍」との棲み分けをすることが可能となる。
- ・館外から利用可能なサービスを利用すれば、時間的制約も解消できる。クラブ活動により放課後に図書館を訪ねることができない利用者も、本を借りることができる。もちろん、休校となった場合でも利用が可能である。
- ・タブレットを使用する授業との連携が図れる。BYOD を推進していく本校の現状にも適うものである。
- ・文字サイズの変更が容易であり、また、「音声読み上げシステム」との連携が図れるため、特別な支援が必要な生徒に対しても、対応がしやすい(インクルーシブ、ユニバーサルデザイン、SDGs など、これからの社会が推進すべき考え方や価値観とも親和性が高い)。
- ・本校の独自資料(学校パンフレット、PTA&教育講演会の冊子)を電子上に保管し、ローカルアクセスで閲覧ができる。また、生徒の作成物(創作物、授業成果物、生徒会発行物、論文)も電子上に保管ができるため、教育の幅が広がる。

以上が現状で思いつく限りのメリットである。上では具体的に触れなかったが、時間的空間的制約を受けない点、また、個人のデバイスで書籍を読めるという点は、コロナとともにある現状の社会においてまさしく有効性を発揮する。電子図書館のサービスによっては、イニシャルコスト(導入費用)がかからないものがあるため、導入にあたっての費用面の問題もそれほど導入の障壁にはならないだろう。

さて、最後のまとめが「電子図書館」のことばかりになってしまったが、「Fab」や「動画作成スペース」についても、教育的ニーズを考慮した上で検討するのも面白い。生徒たちが、図書館の情報資源を活用し、創造的に情報発信や表現できる環境づくりも、本校の新図書館

を考える上で重要なものである。今回の訪問は、図書の貸出・閲覧以外の図書館の役割を考えるのに、非常に良い機会をいただいた。今回得た知恵や刺激を、新図書館の運用に少しでも還元していきたい。

参考資料

- ・工学院大学附属中学校・高等学校 図書館 ホームページ
<https://www.fab-library.com/>
- ・工学院大学附属中学校・高等学校ホームページ内 「図書館」紹介
<https://www.js.kogakuin.ac.jp/schoollife/library.html>